

NUPRI NEWS

Nagano Urban Policy Research Institute

長野都市経営研究所

Vol.7

2000.MAY

発行日 / 2000年6月5日 (年4回)

発行 / 長野都市経営研究所 〒380-0936 長野市岡田町178 長野バスターミナル会館3F TEL 026-223-7900 FAX 026-223-6166 http://www.nupri.or.jp E-mail : nupri@nupri.or.jp

長野都市経営研究所

21世紀に向けて 長野...皆で考えよう

去る4月26日(水)、第10回NUPRI全体懇談会において、コーディネーターに(株)梅澤忠雄都市計画設計事務所所長梅澤忠雄氏、パネラーに各方面の専門家5人をお迎えし、「どうする長野：皆で考えよう21世紀に向けて」と題してパネルディスカッションが行われました。それぞれの発想豊かな街づくりに対する提言をまとめました。

長野都市経営研究所 理事長 鷲澤正一氏



NUPRIは、オリンピックが終わり、ポストオリンピックの時代に長野の街づくりをどうするかという大きなテーマに掲げ、提言をするだけでなく、出来ることは自分たちで実行しよう」と今日まで議論、研究をして参りました。

具体的にはセントラル・スクウェアを実現し、中央通りを少しでも活性化したいという思いを込め、会社を作って運営をして参りました。また、エムウエーブを善光寺に並ぶ目玉にしようと、NUPRIが一部出資をし、一生懸命経営をしています。更に、長野市の街づくりと小学校の適正配置委員会というのを、6年かけて研究し、山王の場所の後町、鍋屋田、山王を合わせた小学校を作るという提案を致しました。その他にも中核都市の勉強の中から、広域連合をどう捉えるのかということも勉強しておりますし、或いはスポーツイベント都市ということを長野はどうやればいいのかということも研究をしています。

今、長野市は、経済不況をきつかけとして、大きな変革期を迎えています。「そこそこ」さんの閉店問題、セントラル・スクウェアも含め中心市街地の空地化等、街の構造そのものが大変な事態に直面していると思います。今後、長野は大きく変わらざるを得ない。しかし、変わ

るとするならば、今、大変なチャンスを迎えているのではないかと考えています。マイナス要因としては、市、県など財政的なピンチであり、不景気は経済界にもはつきりと現れています。プラス要因を考えれば、土地の値下がり等、コストはかなり下がってきています。これをチャンスと捉え、街づくりを我々の力で努力をしようではないか、そんな時期にあるのだと思っております。

行政も、TMO(タウンマネージメントオーガニゼーション)という組織を立ち上げようとし、中心市街地活性化の具体的な事業内容も提示されています。現在事業中のものから、短期、中期、長期ごとに計画された事業が63あり、活性化に向けて動き出しています。セントラル・スクウェアの活用や小学校跡地の問題も平成15年度からの中期事業の中に組み込まれています。例えば後町小学校と鍋屋田小学校跡地をどうするかという原案を我々が出していくとすれば、今がその時期である考えます。

このチャンスをしつかりと捉え、あらゆるところで街づくりに対する様々な議論を巻き起こすため、ぜひ皆様方の知恵をお借りしたいと思っております。今日は、第1回という位置付けで、今後も2回、3回と様々な意見をいた

コーディネーター

梅澤忠雄氏

去年の秋に、ヨーロッパのベルリンという街に行きました。ここは今、首都移転をやっている、それができ上がりつつあるという状況を目の当たりにしました。世界140カ国の大使館が一挙にでき、宿舎や住宅ができ、街ができるということで、建設業の活性化からすると本

とをもちとたくさんやって然るべきなのではないかと思いました。



今、ヨーロッパ全体で歴史的な大再編成というシナリオを作り、

どの都市も再開発のオンパレードとなっております。参考になることも多いと思いますので、皆さんにもぜひヨーロッパを見に行ってくださいと思います。

ベルリンの壁が外れて、東ベルリンの街を容易に見ることができるようになって色々面白いことがありました。街の中に白い10階建てくらいの建物があり、ちよつと変わった建築だなと思いついてみると、それはいわゆる別荘だったんです。ベルリンは北にある街ですから冬は雪が降ります。除雪をしなければならぬし、畑も利用できなくなるので、冬になると都心のマンションに皆でやって来て、オペラを見に行ったり、買い物をしたり、都市的な生活をするそうです。

これからの中心市街地活性化の問題についても、中心市街地をもっと大事にして、そこにどうやって住むかということを考えていってほしいと思います。

私もいろいろかやり始めていた中に、ハイベックスというプロジェクトがあります。マンションの低層階に医療機関を置いて、上階、つまり街の真ん中に高齢者に住んでいただくということ。これは、医療産業にとつてはお客さんが一箇所に大量に集まるということで大変時間のかかる厚生省の認可も、非常に短期間でできるようになるのではないかと利点も予測されます。医療関連を集めることで中心市街地に多くの人が住むという考え方です。

私は、マンションを日本で初めて発明した人に会ったことがあるんですが、その人はまず最初にバーがたくさん入るソシアルビルを発明しました。それまでバーやクラブという商売は、1階にあるというのが常識だったのですが、彼は地下室から8階までをクラブやバーにすると言つて、銀座中で笑いものになったんです。しかし、ちょうど経済復興の折で一気に入テナントが埋り大成功しました。他の人たちは皆真似るようになり、それが常識になりました。彼は次に住宅の高層化ということをやったんです。区分所有というのが今ほど定着していない時代ですから、随分笑い者になったそうですが、これも成功しました。

私が申し上げたいのは、40年以上も昔の話なのに、未だ、真似した人はいても、それ以上に出た人は一人もいない。そろそろマンションを一步超えた商品を考えてみたらどうかと思います。ハイベックスもその一つですが戸建てであちこち建てるマンションをやめて、小学校の空地があるのなら、そこに素晴らしい次世代のマンションを作つたらどうかと考えています。

新しい事態に対して、新しい答えを作る人がいない。それは日本の問題であり、地域活性化の問題も大いにそ

(株)宮本忠長建築設計事務所
松橋 寿明氏



21世紀を迎えるに当たり、まず20世紀とはどんな時代だったのか。自動車が、

モータリゼーションが起きる。生活スタイルが大きく変わり、欧米化、近代化し、インターナショナルリズム・国際的な社会ができた時代ではないかと思えます。この反対に地域主義・リージョナリズムというのがありますが、これから21世紀に向けて長野市を考える時、クリティカルリージョナリズム・批判的地域主義という考え方で、善光寺の門前町として発展してきた歴史や伝統をベースに考えていく、地域の持つている発展材料、要素を育て、100年前から持続してきた長野市というものを見直していく必要があると考えます。

そこで、22世紀は「都市の時代」と位置付け、郊外に移転しつつある公共施設、住環境を都心に戻し、都市に住む。そのために自然環境を蘇らし、都市環境を形成する風景や集住することの利点を見直し、インフラ整備を進めます。

そこで、長野市中心市街地の都市構造を見ると、善光寺から長野駅までの距離が全長約1.8km。そのほぼ中央にセントラル・スクウェアがあります。商業、観光、両方にまたがる極めて重要な土地性を持っていることを一つの拠点とし、長野駅へも善光寺へも歩いて行くことができる大きな公園、セントラル・パークを提案したいと思えます。東側・イーストサイドパークと西側・ウエストサイドパークを両極的に捉え、集合の高層住宅、連続する店舗構成、大きな公園を持つ広場、地下は、居住者、善光寺への環境拠点、そして商業地域が活性化するための駐車場とします。

セントラル・スクウェア周辺のイーストサイドパークは、オリンピックの表彰式会場というメモリアル性を配慮し、大きな広場と1階を店

舗、上部を高層の集合住宅とするマンションで構成します。店舗を外周に回し、内部に大きな空地を作って緑化することにより、居住性を高めます。

ウエストサイドパークは、ここに十念寺があることから、門前町の歴史にふさわしい環境要素として、この一帯を日本庭園、歴史、伝統になぞられた格式の高い能楽堂とします。

駐車場の地下計画は、セントラル・スクウェアのエリアから後町小学校へと、全体を6つのブロックで構成し、段階的に進めていきます。地下に1900台の駐車台数を効率的に止めることができると考えます。

また、善光寺の表参道を上げて行くと、宿坊、仲見世群があります。善光寺の門前町として発展してきた伝統的な地域の遺伝子を示すような宿坊ですが、発展、活性化していく中で、大勢の宿泊客を呼び込みに建て替えが進められ、木造の素晴らしい建物が失われつつあるというのが現状です。伝統をベースにした発展という考えから、善光寺だけでなく、街の中の建物を保存することが、市民の生活慣習を保存することにもつながり、安易な開発を防ぐ大きな歯止めになると考えます。

更に、城山小学校と城山公園の整備として、千鳥ヶ池から水路を全体的につなげ、城山小学校の校舎辺りに大きな池を作ること、善光寺の火災及び都市防災に備えることができます。

また、高台になっていく蔵春閣の一角は、善光寺平を一望できる場所、逆に善光寺平からも認知できる場所ということから、仏都長野を象徴する物・五重ノ塔を建てるという大胆な計画を考えています。

信濃美術館は現在面積不足ということで、市営球場の跡地を利用した大きな美術館への建て替えをし、一帯を芸術ホール、全体に木を植えた古都の森を作ります。彫刻の森や、市民の創作活動の場を善光寺の歴史性にふさわしい場所を作り、街全体の芸術性、文化性を高めることが、市民意識の向上にも繋がるのではないかと考えます。

また、この部分は危険な崖地で、非常に急な坂になっているので、コンクリートを固めることにより、この崖地の災害を防ぎながら、階段状にスロープで繋いだ立体的な1層型の駐車

場を作ることができると考えています。

このように中心市街地の話から発展して、長野市全体、善光寺まで捉えた考え方で色々な提案をさせていただきました。都市に住むということは、生活者がいて、商業者がいる。双方が

(社)長野青年会議所
理事長 竹内隆文氏



青年会議所は、地域の社会であり、

開発、発展させていくか意見を出し、実践していくことが私たちの主要なテーマと捉えています。

長野市の街づくりについては、中心市街地の問題と、篠ノ井、松代を含めた長野市全体についてポイントを置き取り組んでいます。

中心市街地の問題として、セントラル・スクウェアが、オリンピックの資産として存続していくにはどうなって欲しいか、アンケート調査を実施しました。その結果、「思い出の広場として存続して欲しい」、「気楽に利用できる公園、公共の物として残して欲しい」という認識があることがわかりました。

そこで、長野JICではPFI法案を利用し、セントラル・スクウェアを緑地公園にし、中心市街地活性化の一端を担える広場、セントラル・スクウェアをコアとした街づくりを提案致しました。

まず、セントラル・スクウェアの後利用計画組織を立ち上げ、長野市とセントラル・スクウェアの公園整備をし、運営する契約を交わす。組織は公園整備並びに有効利用した企画を実行し、セントラル・スクウェアを利用した人数によって代金をもらい土地代金とする。期間等の契約終了とともにセントラル・スクウェアの公園を長野市に寄付する。企画内容としては、公

園としての「憩いの環境」。或いは、それを利用したファミリーマーケット、季節の物による風物詩等が考えられる。そして週末には、仮設のカフェ、ステージ広場を利用したコンサートやシンポジウム、市民祭への場所提供を行うことで公園を利用していただきながら、活性化に繋げていきたいと考えています。

昨年、今年と、オリンピックで起きたボランティアリズム、オリンピックムーブメントを忘れることなく思い出してもらいたい、明りの絵画をテーマにしたメモリージョンナガノをセントラル・スクウェアで開催致しました。核となる場として有効に利用させていただいたと考えています。

また、長野市全体の街づくりということに関しては、JCMメンバーが今の長野市についてどのような認識を持っているのかという意識調査を行いました。

これからの街づくりを考えていく上で、長野市の抱えている問題はどんなところであるか。オリンピック施設の後利用 市内の公共交通機関の不足 中心市街地の衰退 中核市となった長野市が取り組まなければならない課題は何か。

ベンチャー企業、大企業の誘致 公立私立大学の誘致 新しい交通システム等ハード面の不足 自分たちの街の誇りに思うことは何か。 自然が豊か 歴史等の文化施設、豊富なオリンピック的な施設

21世紀を迎えるにあたって、長野市の将来像はどのような都市になってもらいたいのか。 芸術と文化あふれる都市 国際コンベンション都市 福祉の充実した地方都市 中核市となった長野市が取り組まなければならない課題は、

観光資源の開発 環境、景観の保全 行政、民間、大学による街づくり これからの街づくりを考えていく上で長野市の抱えている問題はどんな点にあると考えるか。 地域間競争で優位に立つ存在がない 市内のポイントとなる場所が明確でない 長野市をどう動かしていくかという市民運動が足りない

中核市になった長野市として、現在足りない

ころは何か。
 どんな中核市になりたいかというビジョンが明確でない、それを情報公開して欲しい。街の中で自然や緑と接する場がハードとして欲しいという意見がありました。

長野市の中心市街地活性化を考える場合、セ

梅澤氏 サッカーの中田が行っていたペルージャというイタリアの街がすごく活性化しているんです。イタリアは都市を保存していて、しかも文化財や世界遺産ですから壊して新しい物を作ることはできません。車も入れないし、郊外に住んだ方が便利なのに中心市街地が活性化している。どうやっていっているかというと、世界一イタリア語をきっちり教える街として、世界中から留学生を集めているんです。ルネッサンスを学びたければラテン語が必要になる。ラテン語をやるには、まずイタリア語をやらなければならぬということ、10万都市になんと世界中から3万人も学生が集まっています。その人たちが、おじいちゃん、おばあちゃんややってる中心市街地の古い下宿屋にくまなく入っているんです。

ヨーロッパは中心市街地を活性化するため、あの手の手と色々とやってきています。日本人は、机の上で頭でっかちになってばかりでうるたえていないで、ヒントになるような方

(株)北澤建築研究所
 所長 小林 克己氏

私は、セントラル・スクウェアの近くの門前町の裏方にあたる東町という所的を絞って考えました。なぜこの地を選んだかというと、中心市街地の抱えている問題の一つに空洞化現象があります。空洞化を防ぎ、人と会う街づくりということを考えて作りました。

ちよつどの部分に善光寺門前駐車場整備事業計画がありました。市の計画に沿って駐車場にしても面積は5900㎡弱のこのエリアには250台しか止まらないし、エリア内の28%



居住者の移転先を考えたら計画になり無理がある。

そこでこの周辺地域の勾配を利用して、町を多段に重ねてみたかどうか。名付けてレイヤータウンを計画しました。市の計画の駐車場を半地下とか地下にレイヤーとし、その上に28%の居住者を順次移転していけば、仮設住宅も作らずに済み、また現在の南面の採光が取れないというような居住環境が、こういう形にレイアウトすることによって、改善されるのではないかなと思われま

また、ここを現場調査した時に、藤木庵さんの脇に非常に心地よい、しかもきちんとな名前も付いている小路がありました。街というのは回遊性が必要だと思えます。松本は非常に奥の深い街、面の街だと言えるところですが、言うなれば善光寺は線の街です。小路を利用して、面を街を作れば回遊性が生まれ、滞在時間の長い街づくりができ、住民の方も楽しく過ごせるのではないかなと思えます。

計画を作るにあたり、気になったことは、街の中心部の防災性が必要だと感じました。ここで火事が起これば、消防車が入れないという状況が多分にあると思えます。

そこで、今回計画したのは、建物を利用して街の中に道を作ったかどうか。道を作ることによって防災性もあり、この道を使って各家庭にこんにちはと挨拶できるようなコミュニケーションを図ることができたらいいなと思っています。建物のデザイン、高さも善光寺のお膝元ということもあり、高さを規制して、なるべく低く作ってあげば、きれいな街ができていくのではないかなと思います。高さ制限をすることで民間ではなかなか採算がとれないのではという問題がありますが、市の駐車場計画と絡めて進めていけば、現実的なものになるのではないかなと思います。

しかし、行政を動かすには、街の住民が関わることが重要だと思えます。住人同士のコミュニ

二ヶーションが取れていなければ街づくりはできないし、無関心さがひいては自分に振り返ってくるのではないかなと思います。この提案書はまだ試案の段階ですけども、住人同士の一つのコミュニケーションツールになればという思

梅澤氏 自動車の生活になり、商業は郊外へ

ということをやったアメリカが今何をやっているかと言うと、中心市街地の空洞化に真剣に取り組んでいます。フロリダのボカラトンという小さな街では、フューマンスケールの昔あったような、非常にほっとする街並を作っています。あの郊外化をやりまくったアメリカが、またその商業ディベロップが、そういうのも飽きたし、つまらないと考えて、中心市街地に取り残されてしまった方々をうまくコーディネートして昔のレトロの感覚の街を作っているんです。日本でもそろそろこういう必要性があると考えられるディベロップが出てくるかもしれないし、街もそういう商業ディベロップをくどいていく必要もあると思えます。

本日に皆が求めているのは、大規模性とか効率性ではなく、ほっとする寛げる空間や街づくりであると、あのアメリカ力が着実にやり始めて

長野大通り景観を考える会
 会長 星澤 哲也氏

長野市は門前町として栄え、中央通りは善光寺への参道として発展してきましたが、中心市街地は、買い物客を郊外店に奪われ、善光寺への参拝客も裏から来て裏へ抜ける、参道を歩くこともなく、以前の活気は失われつつあります。中心市街地にはゆったりとした空間や緑が少な



く、ゆとりに欠けた街と言えるかもしれませ

ントラル・スクウェアは中心市街地に位置しており、その利用方法が再活性化に役立つものと大いに期待しています。

まず、観光客に歩いてもらうような策を考えなければならぬと思います。例えば豊川稲荷へは駐車場からお参りに行くのに約300〜400mは必ず歩くようになっています。セントラル・スクウェアや後町小学校跡地を利用し、駐車場整備を行うことによって善光寺へ歩いて参拝する。周辺の商店はふと足を止めてみたくなるような楽しみと潤いのある通りとする必要があると思えます。

中心市街地に大きな駐車場が整備され、ウィンドウショッピングが楽しめるような街づくりができれば、郊外店とは一味違った魅力ある街として活気が戻ってくることも考えられます。若者が賑わい、観光客が賑わい、夜にも賑わう街。切れ目のない連続した街として整備されることも必要でしょう。伊勢神宮のおかげ横丁のような大衆的な芝居小屋など、善光寺周辺にもっと賑わいを出すような施設を作ったかどうかと思えます。

また、鍋屋田小学校の跡地の問題ですが、長野大通りは事務所の集積道路という感じを呈してきています。そこで、日比谷公園のような、緑したたる公園と文化施設を作り、中央通りや権堂アーケード通りの賑やかさは違う散歩のできる通りとして潤いを感じる街となると思えます。

更に、後町小学校跡地は、神戸市の北野工房のような廃校になった校舎にパン屋、ケーキ屋和菓子屋といったお店が入り、木造の小学校で

梅澤氏 低成長の時に活性化をやっていくための財源をどうするかというのは、世界的議論になっていくところですが、TIF(タックス・インクレメント・ファンド)という仕組みをご紹介します。都市計画を行うその部分から上がってくる何十年分かの税金を予測し、債権を発行して一般市場で売り出し、市がそれをギランティする。その場所だけのために使う特別財源をその部分で作出すという方法です。これからはそういう勉強もしていく必要もある

第8研究部会

りんごの木 オナー募集

第8部会は、「新産業・アミューズメントの創出による地域活性化」を研究テーマとして取り組んでおります。部会の研究テーマは非常に多岐にわたり、「新しいアミューズメント創出により長野がもっと面白くなる」ということをはじめとして、長野県の農業問題や高齢化対応としての再就職問題などにも分野を広げ、様々な方面で勉強会を開催し、研究して参りました。

その中から今回は、長野県の特産品であるりんご農家にも切実な問題として浮かび上がっている後継者不足の問題を取り上げ、都市と農園のコミュニケーションを図ることにより、農業の活性化に繋がるのではないかと、そして農業も一つの産業として捉えることが出来るのではないかと切り口から「りんごの木 オナー制」を計画し、現在進行中でございます。

長野市から車で30分、オリンピック競技が開催された飯綱山のふもとの高原、三水村の村道沿いに広がるりんご畑をお借りしてオナーを募集しました。三水村で収穫されるりんごは糖度がのり、日本一おいしいりんごこと



言われています。オナー料金は、1本25,000円、作業指導や作業委託も可能となっております。オナー木は、矮化木で収穫や消毒、摘果、花摘みなどのりんごを育てるための作業も楽にでき、フジ3年目の若木で育てる楽しみもあります。1、2年目は若木のため、60kgの目標収穫量に満たない場合でも、その他の成木より収穫し、目標収穫量を確保致します。限定30本ということでNUPRIの会員の皆様にもご案内を差し上げましたところ、好評のうちにかくさんのご応募をいただきましてありがとうございます。

原価計算が難しい農業に対して、手間はいくらか、肥料はいくらかということをきちんと計算をし、農業も事業計画が立てられるんだという裏

りんごの木オナー開園式

りんごの木がはじめる5月28日(日)三水村のりんご畑でりんごの木オナー発足式が開催されました。NUPRI園と名付けられたりんご園には看板が設置され、オナー木には、オナーの名前入りのプレートがそれぞれ貼られました。

園の地主の宮本様は、美味しいりんごを安心して食べていただくために、有機質肥料を使用した健全な土づくりを行っています。大豆、小麦、肉等の蛋白質をアミノ酸にまで分解加工した「ソイルキーパー」、魚、貝、海藻類の天然堆積化石を原料とした「ツチゲン」、北海道の良質草炭を完全熟成堆肥化した「テンポロン」、生骨を砕いて蒸気で圧搾乾燥後粉砕した「骨粉」、直接海水から精製した「ウバマ

グ」などの天然高級資材を長年使用することにより、化学肥料を極力省いた低農薬栽培を実践し、りんご本来の味と香りのする美味しいりんごづくりをされています。

宮本様のりんご栽培に対する情熱やりんご作りのポイント、そして農業の楽しさを学び、爽やかな高原の風が吹きわたる中、自分の木のまわりの草取りをしながら自然に親しみました。お申し込みいただいた方のほとんどが農業未

「長野市都市開発部まちづくり推進課」が新設されました。

長野市に新たに設置されたまちづくり推進課より新設の趣旨や業務内容等をご報告していただきました。

今年4月に機構改革を行い、都市開発部内に「まちづくり推進課」が新設されました。

昭和46年の長野市総合基本計画策定当初より、都市機能の再生と活性化を目指し、市街地における土地区画整理事業や民間市街地再開発事業の推進を図り、JR長野駅善光寺口を中心とした「長野駅周辺第一土地区画整理事業」と長野駅東口の「長野駅周辺第二土地区画整理事業」による面的整備の実施、或いは安全で快適な都市環境を第三次元的に整備する法定再開発事業、任意再開発事業を積極的に展開し、商業・業務・居住環境の整備を行って参りました。

また、商業関係についても、中小規模事業者の組織化の促進や助成等、基盤整備・商業活性化対策の両面から支援を実施しています。

しかしながら、地域全体において郊外への宅地化の進展、無料駐車場を備えた大型量販店や専門店の出店による中心部の人口の空洞化や商店街の衰退は依然として止まるに至りません。

市としても、緑、水、建造物、歴史的文化などに恵まれた自然環境や誇るべき伝統文化等を余すところなく活用し、「美しいまち、潤いのあるまちの実現」を目指し、景観に対する市民意識の向上や美観風致の維持に努めております。21世紀を目前にして社会構造は大きな変革期を迎えております。この変化を的確に捉え、個性豊かな、活力溢れる「まちづくり」を推進する必要があります。

中心市街地は、町の形成期から現在に至るまで政治・経済・文化活動等、多様な活動の場であり、平成10年に策定した「中心市街地活性化基本計画(長野地区)」の実現のため、行政、住民、企業家等が参加し、ステップ・バイ・ステップで着実に実現していくこと。また、歴史的景観・自然景観及び後世に残したい景観等の視点から、景観形成重点地区の指定や景観重要建築物等の指定に取り組むことが求められています。

そこで、次を「まちづくり推進課」の主な業務として今後、取り組んで参ります。

1. 中心市街地活性化事業
- 中心市街地活性化基本計画策定及び計画の随時見直し
- 基本計画に掲載されている事業の推進
- 中心市街地活性化に資する事業の提案・発掘

TMO及び中心市街地整備推進機構の研究

2. TMOの設立推進
- まちづくり市民会議の設立・育成と市民へのまちづくりの啓蒙

市街地再開発事業

3. 市街地再開発事業
- 市街地再開発事業等を活用した民間まちづくりへの支援・助成
- 優良建築物等整備事業を活用した民間まちづくりへの支援・助成
- 密集住宅地における防災街区計画の推進
- 市街地再開発に関する中心市街地活性化事業の推進

都市デザイン事業

3. 都市デザイン事業
- 個性あるまちづくり推進のための景観重点地区及び景観重要建築物等の指定
- 自然景観や町並みとの調和のとれた景観形成を図るため、市内全域における屋外広告物等の適正化促進
- 景観に対する市民の意識高揚を図るため、景観シンポジウムの開催や景観賞の選定・表彰の実施

第三次長野市組合計画がまちづくりを基本として策定され、それに基づき市の各部署がそれぞれの事業を推進しておりますが、まちづくり

編集後記

NUPRI NEWS第7号は、第10回NUPRI全体懇談会において「どうする長野...皆で考えよう21世紀に向けて」と題して開催されたパネルディスカッションにおいて、各方面の専門家の方々から出されたまちづくりに対する提言をまとめました。21世紀に向けて、長野市も大きく変わりつつあります。NUPRI NEWSの情報をより多くの皆様と共有することによって、まちづくりをはじめ、様々な活動にお役立て頂けるよう紙面づくりをしていきたいと考えております。今後とも皆様のご協力をよろしくお願い致します。(広報委員会一同)